

セッション報告



第一部

「私たちの歩み：過去、現在、そして未来」

テーマ1 「私が薬学部に進学した目的と達成状況」

テーマ2 「私の大学のここが好き」

テーマ3 「私の夢と進路：将来の姿を描こう」



第1部 World Café

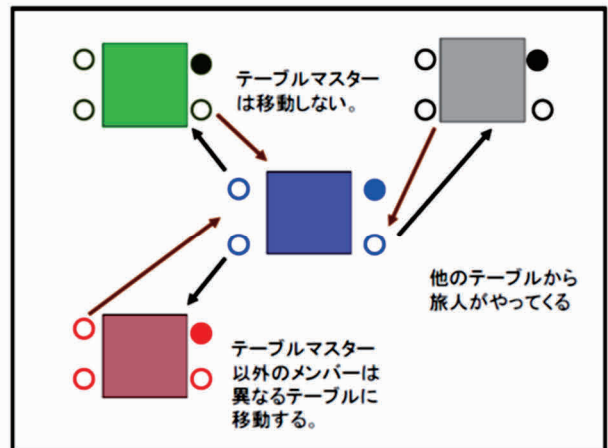
私たちの歩み！
過去、現在、そして未来

日本薬学会第4回全国学生ワークショップ



World Café とは

- グループワークの一つのやり方です。
- 3~4名でグループ討論を行います。テーマごとにメンバーを入れ替えて討論を行います。これを「ラウンド」と呼びます。
- テーブルごとに「テーブルマスター」を決めます。テーブルマスターは固定で、司会をします。
- 1ラウンド20~30分で行います。ラウンドごとにテーブルマスター以外は他のテーブルに散ってもらいます(旅人)。



テーブルマスターのお仕事

1. テーブルマスターから「自己紹介」し、メンバーに自己紹介してもらってください。
2. 第1ラウンドではそのまま指定されたテーマでの討論の司会をお願いします。
3. 第2ラウンド以降は、メンバーの「自己紹介」の次にテーブルマスターから「前のラウンドでの面白かったお話」を1分で紹介して、旅人たちにも話してもらい、そしてそのラウンドのテーマで討論を始めてください。
4. テーブルに模造紙を用意しておきます。メンバーは、ここに気づきなどを書き残して下さい。
5. 第一部の報告書(概要と感想をA4 1枚)の担当。

模造紙には気づきや意見など書いて見て下さい。

模造紙の提出は必要ありません(落書き帳です)!



World Caféでの出来事

- ・多くの人と知り合いになれます。
- ・ということは、いろいろな人のお話が聞けます。
- ・いろいろなお話(他花受粉)によって、新しい発想が生まれます。
- ・でも、「声の大きい人」の旅の軌跡が分かってしまいます。
- ・テーブルマスターはちょっと大変なので、メンバーには「利他的」な行動をお願いします。
- ・発言はお一人**1分以内**でお願いします。

今日のWorld Café のスケジュール

移動

14:00～14:20: 第1ラウンド

移動

14:25～14:45: 第2ラウンド

移動

14:50～15:25: 第3ラウンド

15:25～15:40: 休憩

第1ラウンド メニュー

14:00～14:20(20分)

- テーマ1
「私が薬学部に進学した目的と達成状況」
- 薬学部に進学した理由や現在の自分が取り組んでいることの紹介でも構いません。A4用紙にキーワードを記入(1分程度で)。
- 自己紹介を兼ねて発表をしてください

- ・ テーマに意識を集中して話し合いましょう。
- ・ あなたの考えを積極的に話しましょう。
- ・ 話は短く、簡潔に(1分ぐらいで)。
- ・ 相手の話に耳を傾けましょう。

会話を楽しんでください!

移動です

- ・ テーブルマスター以外は、自分の書いた紙を持って散らばってください。
- ・ 同じ班で集まらないように!
- ・ 第1ラウンドのメンバーは別のテーブルへ!
- ・ 各テーブルの定員は3～4名です!! テーブルマスターはメンバーの人数を調整してください。

➡ 他のテーブルに移動してください

第2ラウンド メニュー

14:25～14:45(20分)

- 自己紹介をしてください。
- 第1ラウンドで印象に残った内容を簡単に紹介してください(1分)
- テーマ2
「私の大学のここが好き」 A4用紙に記入(イラスト歓迎)(1分程度で)

思う存分語り合ってください。

移動です(最終ラウンドです)

- ・ テーブルマスター以外は散らばってください。
- ・ 同じ班で集まらないように!
- ・ 第1、第2ラウンドのメンバーは別のテーブルへ!
- ・ 各テーブルの定員は3～4名です!! テーブルマスターはメンバーの人数を調整してください。

➡ 他のテーブルに移動してください

第3ラウンド
メニュー

14:50～15:25 (35分)

- 自己紹介をしてください。
- 第1、2ラウンドで印象に残った内容を簡単に紹介してください(1分)
- テーマ3
「私の夢と進路: 将来の姿を描こう」
A4用紙に将来の自分の姿を絵に描いて下さい
(5分程度で)

第3ラウンド
メニュー

14:50～15:25 (35分)

- 自己紹介をしてください。
- 第1、2ラウンドで印象に残った内容を簡単に紹介してください(1分)
- テーマ3
「私の夢と進路: 将来の姿を描こう」
描いた絵は、メンバーに見せてあげてもらおう!



I A班-1

第一部では「私たちの歩み！過去、現在、そして未来」をテーマに World Café 形式で 3 ラウンドの討論を行った。以下に各ラウンドでの議論の内容をまとめる。

<第1ラウンド>「私が薬学部に進学した目的と達成状況」(過去)

● 基礎と臨床の懸け橋に

今日の日本社会では、基礎研究と臨床研究が別個のものとして捉えられており、基礎研究者は臨床のことを、臨床研究者は基礎研究のことをほとんど知らない。だからこそ、私は基礎研究と臨床研究をつなげることができる研究者になりたいと考え、6年制薬学部に進学した。今では論文発表などを通して、基礎と臨床をつなげる取り組みを行っており、さらに今後は大学院に進学する予定です。

● 処方薬以外の角度から人の健康に貢献

医師が処方した薬を調剤するだけでなく、Herbal medicine を普及させ、人の健康に貢献したい。そしてもっと気軽に健康相談をしてもらえる薬剤師になりたい。今はメディカルハーブやアロマセラピーについて興味をもち、勉強しています。

(グループ全体として)

第1ラウンドではグループ全員が研究に興味を持っていた。しかし「6年制薬学部＝臨床」という雰囲気はどの大学にも強くあるようで、研究への道には進みにくいという話が出た。特に女性が研究の道に進むことは、結婚や出産のことを考えるとより難しい。臨床を意識した研究者を社会に輩出していくためにも、6年制薬学部生が研究に進みやすいような、雰囲気づくりや環境づくりが必要であるという結論に至った。

<第2ラウンド>「私は大学のここが好き」(現在)

● 大学時代にチーム医療の基盤づくり

医療系の総合大学で、医学部生や看護学部生と低学年のころから仲良くなれる。また医歯薬合同でグループディスカッションをする授業もあるので、他の医療従事者の考え方を知ることができる。このような関係作りが社会に出てからのチーム医療の基盤になると思う。

● 少人数だからこそ

学年全体の人数が少人数であるため、友達を 100 人作ることができる。学生同士の仲が非常に良く、飲み会などのイベントが頻繁にあって楽しい。また教授など先生方との距離も近く、細かな指導を受けることができる。

(グループ全体として)

大学ごとにカリキュラムや体制が異なるため、それぞれの大学での長所を感じることができた。どの大学が良いというのではなく、どの大学も魅力的な部分を持っている。そのため私たちは社会に出てから、各大学の良さを活かしていく必要があるのではないだろうか。また薬学部を目指す高校生には、学力レベルや立地だけで大学を選ぶのではなく、自分のやりたいことができる大学など、自分に合った大学をぜひとも選んでほしい。

<第3ラウンド>「私の夢と進路：将来の姿を描こう」(未来)

● 薬剤部長になりたい

薬剤部長になって皆から頼られる存在になりたい。そのためには学位が必要だと思うので、大学院への進学を考えている。

● 感染制御に貢献したい

病院実習に行き、感染制御の大切さを学んだ。抗生物質は頻繁に処方される薬の1種でもあるので、適正に使われるように薬剤師として努めたい。将来は適切な抗菌薬を選択するために、医師から相談されるような薬剤師になりたい。

(グループ全体として)

第3ラウンドのメンバーは全員が病院への就職を志望していた。またそのうちの3名が偶然にも感染制御に興味があり、ICTの一員として働きたいという意志を持っていた。各メンバーの病院実習での話を聞くと、ICTが十分に機能している病院と、そうでない病院があるようだった。またそのなかでの薬剤師の役割も病院ごとでさまざまであり、ICTのなかで活躍できる薬剤師になるために努力が必要であるという結論に至った。

「私たちの歩み！過去、現在、そして未来」(World Café) 全体通して

各大学、各個人でそれぞれの環境が異なるが、皆、今よりも薬剤師を取り巻く環境をより良いものに変えていきたいという強い意志があるように感じた。それぞれの目標に向かって自分自身が努力するとともに、薬学生同士、薬剤師同士が協力し合って、環境を変えていけるように努力していくことが大切なのではないだろうか。

今回のWorld Caféでは全国の薬学部生がそれぞれ自分の考えや夢を持っていることを実感した。皆それぞれが他のメンバーから良い刺激を受けたに違いない。

I A班-2

第一部では「私たちの歩み：過去、現在、そして未来」というテーマでグループ討論を行い、World Café形式で話し合いをすることで薬学生同士の交流を深めることもできた。それぞれのラウンドに小テーマが与えられ、そのテーマに対する自分の意見、考えを紙に記載し、意見交換した。以下に各ラウンドについての詳細を記載していく。また第二、第三ラウンドの最初には前ラウンドで面白い、興味深いと感じた内容について話をしてから、小テーマについて討論を行った。

第一ラウンド：「私が薬学部に進学した目的と達成状況」

第一ラウンドでは薬学部の6年制を選んだ目的と現在取り組んでいる内容について討論した。薬学部に進学した理由は実に様々であり、薬の名前が知りたかった、免許が欲しかった、地元で薬局を開きたかった、病院薬剤師に憧れていた、などが挙げられた。そして6年間の学習の末、入学当初の目的を達成するために病院に就職した人もいれば、企業の道を選んだ人もいれば、進学を決意した人もいたため、改めて薬学部の就職先の選択の幅は広いと感じた。一方で、当初は薬局志望であったが結局は企業に就職したということから6年間薬学的知識を身につけていく過程で考え方も変わっていくのだと感じた。しかし共通して言えることは、全員がより良い医療に貢献するために、それぞれの道を走り続けているということだ。

常に高い目標を持ち、日々精進することで理想像へと近づいている仲間に刺激され、各々がこれからも努力し続けていこうと感じたように思える。そして100回目の国家試験合格を誓い、第一ラウンドは終了した。

第二ラウンド：「私の大学のここが好き」

第二ラウンドでは自分の大学の好きなところをイラストも含めて記載し、大学ごとにどのような特色があるのかについて討論を行った。最初は各地域の特色（天気が良い、蛇口からポンジュース、銀杏並木がきれい、キャンパスが広いなど）を挙げた討論になり、大学の特徴という議論になかなか発展しなかった。しかし次に学部の人数について大学ごとに違いがあるという点に着目し、どのくらいの人数が薬学部教育で適切であるかについて討論した。人数が少ないと競い合い、高め合うことができないという意見が出た一方で、多すぎても薬学生同士お互い顔も知らない人が出てきてしまうという意見もあった。

また病態の授業等で医学部など他の学部との交流があるという大学もあったが、薬学部以外の人との交流はほとんど無いに等しいという大学もあった。これらのことから、同じ薬学部といえども大学によってどのような教育を受けてきたかは大きく異なることが分かった。

第三ラウンド：「私の夢と進路：将来の姿を描こう」

第三ラウンドでは将来自分がどのようにになりたいかを文字を使わず、絵を用いて表現し、それについて話し合いをした。将来を描いたイラストには製薬会社で新薬貢献に努めていきたいという目標や、薬剤師として医療に貢献したいという目標もあったが、後者が主であったため、それについて討論した。どのような薬剤師になりたいかという話題では、医師に処方提案ができる薬剤師や、患者や他の医療従事者と手を取り合って医療を行いたい、がん専門薬剤師になりたいなど多くの人が病院薬剤師になりたいという強い意志を持っていた。薬局薬剤師には魅力を感じないのかという話題では、実習を通して薬局薬剤師は病院薬剤師と比較するとレベルの低さを感じた、病院で多くの患者に触れ、勉強していく過程で専門性を取得したいなどの意見があり、このワークショップに参加している多くの人は病院薬剤師を志望しているのではないかと思った。

また討論していく中で薬剤師の地位についての話となり、先ほど討論したような専門性を取得し、認定薬剤師の資格を取ることで、医師からの信頼度も高まるのではないかという意見が挙げられた。現在の薬剤師の立ち位置に関して納得していない人も多く、その問題を解決したいという強い意志を持った薬学生が多くいることを知り、同じ意志を持った仲間がワークショップ等を通して集まり意見交換することで、これらの問題点は改善されていくのではないかを感じた。

World Café はワークショップに参加するまで知らなかったが、実際に体験してみたところ、テーマについて冗談を混じえつつ気軽に討論できるため、話題に入りやすく短い時間で様々な情報を入手することができた。第一部では大学による様々な違い、そしてこんなにも熱い志を持った同期がいることを知ることで、非常に刺激を受けたグループ討論となった。

I B班-1

World Café 形式を用いて、3つのテーマに関して討論を行った。自分達の過去を振り返り、現在の状況を把握し、将来の目標を見つめ直すことがこのテーマの目的となっている。

テーマ 1【私が薬学部に進学した目的と達成状況】

薬学部に進学した理由に「薬剤師になりたかった」、「いろいろな分野のことが薬学なら学べるから」、「薬剤師が安定した職種だから」、「新薬を開発して患者さんを救いたいから」、「いろいろな場面で活躍できる職種であるから」という意見が挙げられた。薬学部に入學し

た理由は様々であるが、議論を進めていくと、グループ全員が「人の役に立ちたい」という思いから薬学の道に進んだということが分かった。

目標の達成状況に関しては全員がまだまだ達成には程遠い位置におり、大学を卒業することで初めてスタートラインに立てるという考えを持っていることが分かった。

テーマ 2 【私の大学のここが好き】

大学の講義やカリキュラム、働いている職員について、ユニークな行事があるなど様々な場面から各大学の特徴や薬学教育の取り組みを知ることができた。具体的に以下の様な内容が挙げられた。

- ・ 指導教員と気軽にディスカッションできる環境がある。
- ・ 医歯薬 3 学部合同で行う講義がある。
- ・ 企業で働いている先輩を招いて行う講義がある。
- ・ 学年の人数が少なく、全員と友達になれる。
- ・ 講義を工夫してくれる先生が多い。

大学の環境や特徴を活かした講義が行われていることを知ることができた。医療系の学部が併設されている大学は他職種についての理解を学生のうちから深められる環境が整っており、合同で行われる講義はチーム医療が推進されている今日にとって、とても良い仕組みだと感じた。単科大学では企業の方の講演が積極的に行われており、大学では学ぶことが難しい医薬品業界や会社について学ぶ機会が比較的多いことが分かった。討論により、各大学が特徴を活かした大学教育を行っていることを再確認できた。

テーマ 3 【私の夢と進路：将来の姿を描こう】

グループメンバーの進路は、薬局、病院の薬剤師、製薬会社、大学院進学となっていた。メンバーそれぞれがこの進路を基盤として将来の自分の姿を絵で表現した。

- ・ 研究者となり新薬開発に携わりたい。
- ・ 患者さんとの対話を大切に、信頼される薬剤師になりたい。
- ・ 小児薬物療法に精通した薬剤師になり、さらに指導薬剤師となり薬学教育にも力を入れていきたい。
- ・ 患者さんに安心して使ってもらえる医薬品を提供し、グローバルに働ける人材になりたい。

このように自分がやりたいこと、そして明確な目的意識をしっかりと持って進路選択をしていた。また議論の中で、薬剤師はもっと病態についての考察、科学的思考ができるようになるべきなのではないかといった意見が挙げられた。このように、グループメンバーが持つ未来の薬剤師象も共有することができた。

World Café 形式の討論により、自分の過去を見つめ直し、将来どのように社会に貢献していくかを再確認することができた。また、全国の薬学生がどのような環境で薬学を学んで

いるのかを知ることができた。そして、学生は様々な考えを持ち、その考えを自分なりの形とすることで社会に貢献していきたいと考えていることを知ることができた。

I B班-2

第1部では World Café 形式で「私たちの歩み！過去、現在、そして未来」を主テーマとして3ラウンドの討論を行った。

○第1ラウンド：「私が薬学部に進学した目的と達成状況」

薬剤師になるために薬学部に進学した者が多かった。過去の体験から得られた薬剤師に対する憧れや、薬剤師という職業が安定していて経済的にも魅力的であることが理由に挙げられた。また、高校から化学が得意であったため、薬学部を志望した者もいた。その他、薬剤師以外にも民間企業や研究、行政など将来への幅広い選択肢があることから志望した者もいた。

今後、まずは薬剤師国家試験の合格が重要であることは一致した意見であった。その後は技術や専門性を磨いてスキルアップをしていき、臨床現場で貢献したいという意見も多かった。そのため、進学目的の達成はこれからとなる。また、なかなか定まらなかった将来像を薬学部で学ぶことによって決めることができ、入学の目的を果たした者もいた。

6年制薬学部の特性上、医療従事者として薬剤師になることが進学目的として多い。一方で他の医療系学部とは異なり、化学を中心とした知識を獲得でき、研究など将来の選択肢が広い点が薬学部の特徴であることも明確になった。

○第2ラウンド：「私の大学のここが好き」

大学での教育がまず挙げられた。2.5ヶ月の実務実習に加えて、希望者はさらに4.5ヶ月の実習に参加できるという大学があった。追加の実習では病院や薬局だけでなく、開発（治験）機関や研究機関、行政施設でも実習を受けられるのが特徴的であった。また、病院実習でのチーム医療へ取り組みも挙げられ、実習生から医師に対して処方提案を行うこともでき、主体的に参加できた事例を紹介された。また、実習中は指導薬剤師1人に対して学生1人が割り振られ、マンツーマンで指導を受けられ手厚いサポートがあることも挙げられた。その他、研究にもしっかり取り組んでいることも挙げられた。

大学環境については、自然環境が豊かであることや大学でバーベキューが可能であること、地域の祭りなどが盛んであることが挙げられ、住んでいる地域の特徴が表れていた。他学部との交流機会があることも挙げられた。単科大学の学生からは他学部との交流が羨ましいとの意見も挙げられた。

大学ごとの特徴が表れ、大学生活にみな満足しているようであった。実務実習のカリキュラムは、成功例を複数の大学間で共有し広がれば薬学教育のレベルの底上げにつながると考えた。

○第3ラウンド：「私の夢と進路：将来の姿を描こう」

将来の進路として、薬剤師になることがまず挙げられた。今後、在宅療養が中心になる際に、安心できる医療を患者の自宅で提供できるかが重要となる。そのような状況下で、薬剤師として安心を患者に届け医療に貢献し、さらに、「薬剤師さん」ではなく「〇〇先生」と名前と呼ばれる薬剤師になりたいとのことであった。その他、専門性を磨きスキルアップを図っていくことや、患者さんから信頼される薬剤師になりたいとの抱負も紹介された。

大学での研究も挙げられた。薬学部は基礎研究から臨床研究まで一貫して研究可能である。そのため、新薬候補物質の探索から治験までも行い、新薬を生み出し医療に貢献したいとのことであった。さらに、大学で研究者の人材育成にも取り組み、輩出された研究者たちと研究を進め新薬を生み出したいという夢も紹介された。

行政も進路に挙げられた。行政の使命は現場の人々の能力を最大限引き出すための環境を整えることであると紹介され、現場の声を反映した政策を遂行しこの国の医療を支えたいとのことであった。直接、感謝されることは少ないが縁の下の力持ちとして貢献したいとの抱負も紹介された。

将来の進路や分野は異なれども最終目標は医療への貢献で共通であった。そして、みなとても崇高な使命感を持ち、熱く将来像を語る姿がとても印象的であった。将来、医療に貢献できることを期待してやまない。

IC班-1

テーマ1：「私が薬学部に進学した目的と達成状況」

薬学部に進学した目的は、「医療に貢献したい」、「薬学部にはたくさんの道がある」、「薬剤師になりたい」、「化学が好き、勉強がしたい」、「薬がなぜ効くかを知りたい」など人によって様々でした。達成状況は、達成できたという方や、国家試験を合格してからだという方がいて、目的がどこにあるかによって達成状況は様々でした。

テーマ2：「私は、大学のここが好き」

「アクセスの良さ」、「夜景」、「他学部がある」、「近くに繁華街がある」、「母校愛が強い」などが挙げられ、「医学部等の学生と合同で行う授業がある」といった、特別なカリキュラムがあるといったことに優先して、このような点が多く挙げられました。このことより、6

年間という長い期間を過ごすにおいて、大学生活を楽しく送れる環境であることも大事であると考えられました。

テーマ3：「私の夢と進路：将来の姿を描こう」

進路先が決定している方、まだ模索している方がいるなかで次のような夢をイラストと共に話しました。「CROで開発業務に携わり、いくつかのプロジェクトをもちたい」「既存薬の適応を増やし、薬を大きくしたい」「地域の子供から、自分の姿を人形にしてプレゼントしてもらえそうな薬剤師になりたい」「化粧品会社で安心して使っていただける化粧品が作りたい」と、さまざまな夢がありました。テーマ1での話はどうだったかということも交えて議論したところ、6年間の大学生活、実習や研究を通して「当初の目的と変わり、もっと研究をしたいと思った」など、変化していったという声もあり、今後も変わっていくのだろうと話しました。

IC班-2

第1ラウンド：テーマ「私が薬学部に進学した目的と達成状況」

薬学部に進学した目的として、幸せになりたいから、持病を薬で治した時に「薬って凄い」と感動したから、女の子がたくさんいるから、薬剤師の資格が欲しかったから、等が挙げられた。目的を発表した後に達成度の話となり、中でも「幸せとは何か？」について熱い討論がなされ、各々が薬学部に進学する目的を持った理由を深く掘り下げる流れとなった。女性が多いからといった砕けた意見も場を温める良いキッカケとなった。達成度は人それぞれではあるが、目標を達成するという心積もりは皆十分であることが分かった。

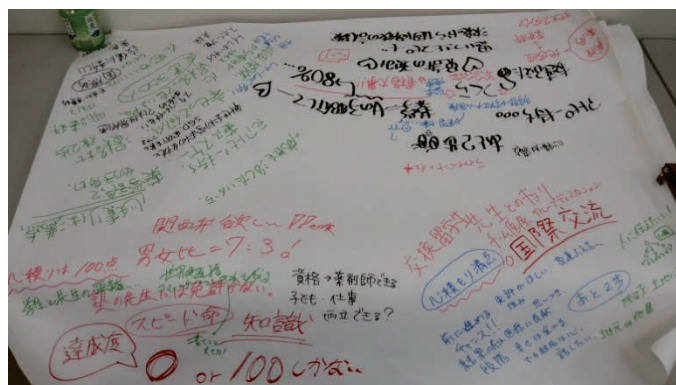
第2ラウンド：テーマ「私の大学のここが好き」

自分の大学の好きな点として、国際的である、研究室の仲が良い、学生のスポーツ支援に力を入れている、設備が新しい、他科の学生と共に学ぶカリキュラムがある、教員と学生の距離が近い、等が挙げられた。特に他科の学生と共に学ぶカリキュラムの話が盛り上がり、その大学では実際の患者を対象に他科の学生と協力して問題にあたるというSGDが行われているとの事であった。また、教員との距離感の話も盛り上がった。大学間に様々な差があることを知ると同時に、皆自分の大学の良さを再確認出来ていた。

第3ラウンド：テーマ「私の夢と進路：将来の姿を描こう」

自分の将来の姿をイラストで表現し、お互いに内容を確認し合った。内容としては、

MRに従事する、製薬会社で研究・開発を行う、大学院に残って研究する、専門薬剤師になり知識を活かす、等であった。薬剤師の自分たちが社会にどう貢献するのかについて討論が行われた。また女性が多かった事もあり結婚というテーマも討論された。イメージする将来像や仕事と結婚・出産といったライフイベントにどう折り合いを付けるのか、といった内容の話し合いがなされた。皆明確な将来像を持っており夢に邁進していた。



感想：意欲的な発言が多くテーブルマスターの仕事がとてもやりやすかったです。自分自身を振り返れた事、様々な意見や考えを聞かせていただけた事がとても良い刺激となりました。最後ではありますが world café を一緒に行ったメンバー、並びに協力して下さった皆様に敬意と感謝を申し上げます。

II A班-1

概要

Would Café 形式を用いてテーブルマスターを固定し、1 テーブル 4 人の小グループに分かれ、「私が薬学部に進学した理由と達成状況」「私は大学のここが好き」「私の夢と進路：将来の夢を描こう」の 3 つのテーマを 3 つのラウンドにて討論を行った。

議論の経緯

第 1 ラウンド：「私が薬学部に進学した理由と達成状況」

薬学部に進学した目的は、薬局薬剤師に憧れて、前の職場に不満を持っていた、両親の都合から、薬剤経営学に興味があったなど様々な理由があったが、いずれにしても薬剤師になりたいという根幹があるということを感じた。達成状況に関しては、90%以上達成している、50%くらい達成している、ほとんど達成していないなど様々であったが、そもそも薬剤師となってからやっと達成できることや、薬剤師となったらまた新しい目標に向かい努力し続けるなどの意見も挙げられた。

第2ラウンド：「私は大学のここが好き」

このテーマではその大学の特徴をよく知るいい機会となった。大学の特徴は様々で、学生の人数が少ないため先生が一人一人の学生を気にかけてくれることや、定期テスト前になると上級生による勉強会が開かれることなど生徒に対しての対応良いなどの特徴や他学部と一緒に授業を受け、情報交換をしやすいこと、また、アドバンスドコースと言われる実習後もその病院で実習を続けられる制度など学校の制度などの特徴、学校自体がとても綺麗であり、モチベーションを高めてくれるといった意見もあった。学校により特徴は様々であり、その特徴の分だけ異なる薬剤師になれるのだと感じた。

第3ラウンド：「私の夢と進路：将来の夢を描こう」

自分の夢と進路を言葉を使わず、絵で表し他の人に内容を当ててもらった。絵の得意、不得意により、完成度に差は出てしまったもののすべての人が自身が伝えたいことを伝えることができた。足りない部分は各自説明を補足した。班のメンバーには2人MRの人がおり、1人は過去の経験からいずれ海外でも活躍できるMRになり、薬が届けられない国に対して対策をしていきたいという意見があり、もう一人のMRからは日本と海外のドラッグ・ラグを無くしたいという意見があった。もう一人からは、様々な面からサポートできる薬剤師になりたいという夢があり、そのために博士をとり、実現していきたいといったものもあった。これらの夢の実現にはどうしていきべきか討議したところ、それぞれの分野の知識を深めていくことはもちろん、各国での薬に関する認識を深めていくこと重要なのではという結論に達した。

感想

それぞれ異なるテーマにおいて、異なるメンバーと討議をすることで、毎回新しい考えを持った人と討議することが出来、とても有意義な時間を過ごす事が出来ました。これからの薬学社会に対応していくには、個々の努力をしていき、異なった環境で薬剤師になった人と力を合わせることで様々な問題に対しても対応していけるのだと感じました。また、この度のセッションを円滑に進めることができるようにサポートして下さったタスクフォースの先生方に感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございました。

Ⅱ A班-2

第一部では『私たちの歩み！過去、現在、そして未来』をテーマとし、全3ラウンドの討論を行った。各ラウンド4人で討論を行い、全てのラウンドでそれぞれ異なったメンバーで討論を行った。それぞれの討論は、各ラウンドのテーマに対する個々人の考えをA4用

紙一枚に簡単なキーワードや絵を記載し、それについてそれぞれが口頭で発表を行い、その後メンバー全員での総合討論を行う Word Café の形式で行った。

第1ラウンド：『私が薬学部に進学した目的と達成状況』

本ラウンドは主に、過去の自分を振り返り、現状の達成度を評価する課題であった。薬学部に進学した目的の多くは、薬への興味及び薬剤師という職業への憧れを根底としたものであった。達成状況としては、概ね達成しているがまだまだ十分ではない、目的の達成のために残された学生生活を有効に活用したいとの意見が多く出た。本課題を通じてそれぞれの人間性が垣間見え、互いに打ち解け合うために非常に有効な課題であったと感じた。印象に残った点：ある大学では2.5ヶ月の病院実習・薬局実習の他に、希望者はアドバンストな実習としてさらに8ヶ月の実習を行っているを知った。本制度は6年生大学卒業後にすぐに現場で活躍が可能な薬剤師の育成が可能であり、薬剤師としての将来を希望する学生の夢を叶える画期的な制度であると感じた。

第2ラウンド：『私の大学のここが好き』

本ラウンドは主に各大学の特色を話し合い、その中から自分の大学との違いを見いだす課題であった。意見としては校風や立地、同学年の人数などの違いからくる各大学の良さが挙げられた。本課題を通じて、他の大学の良さ及び自分の大学の問題点と改善点について考えさせられた。

印象に残った点：ある大学では一学年の人数が少ないという特色を活かし、ヨコのつながり(同学年間)だけでなくタテのつながり(他学年間)を深めることで、早い段階で薬学部及び薬剤師へのイメージを持つことが可能であるとの意見がでた。また他の大学の他医療学部との合同実習を行うことで、他職種との連携を学べるとの意見が出た。実際、現状の教育だけでは、5年次の病院実習や薬局実習が始まるまで薬剤師についてイメージ及びチームとしての医療を意識することが難しいと感じる。そのため上記したプログラムを教育課程の一環として行うことで、この現状も解決可能であると考えた。

第3ラウンド：『私の夢と進路:将来の姿を描こう』

本ラウンドはイラストを用いてそれぞれの将来について意見を出し合い、自分と他人の考えの違いから自己の将来を深く考えなおす課題であった。それぞれの将来の夢は大きく違い、薬剤師としてチーム医療の先頭に立って働きたいという意見や、研究者として活躍したいなどの意見がでた。本課題を通じて自分が本当に何をやりたいのか考え直す必要があると痛感した。

印象に残った点：薬学部を卒業した後の進路は広く、大学時代は自分の本当の夢を探す時間であるとの議論があった。この意見に深く感銘を受け、残された時間で自己の将来を考え直し、さらにこのことは後輩にも伝えていかなければならないことだと考えた。

ⅡB班-1

第1部では「私たちの歩み！過去、現在、そして未来」というテーマで話し合った。討論はラウンドごとにメンバーを入れ替えながら話し合いを行う World Café 形式にて行い、計3ラウンドであった。各ラウンドのテーマは、第1ラウンド「私が薬学部に進学した目的と達成状況」、第2ラウンド「私の大学のここが好き」、第3ラウンド「私の夢と進路：将来の姿を描こう」であり、各ラウンドの始めには自己紹介と前回ラウンドで印象に残った話題について紹介を行った。

議論の経緯

●第1ラウンド：「私が薬学部に進学した目的と達成状況」

- ・ 予防医療に携わりたい
- ・ 家業を継ぐため
- ・ 資格を取りたいから
- ・ 安定した職業だから

上記のように、薬学部に進学した目的は様々であった。しかし、薬学部での生活を通して、それぞれの思い描く将来像は変化したという点、薬剤師として人・社会のために貢献したいという思いが強まったという点が共通点として挙げられる。現時点では目的は達成されていない状態であるが、まずは国家試験を合格し薬剤師としてのスタートラインに立ちたいという結論に至った。

●第2ラウンド：「私の大学のここが好き」

- ・ 薬学部生の仲が良い
- ・ 総合大学で薬学部では見られない一面を見ることができる
- ・ 大学がキレイ
- ・ 茶道師範の資格を取ることができる
- ・ 他医療系学部との合同講義がある

各大学の魅力は、薬学に関するものだけではなく他学部との交流、大学の環境、人間関係についてなど多岐にわたっていた。また、討議の中で総合大学と単科大学の薬学部の違いについても話し合いが行われ、お互いに普段知ることのできない情報を交換し合った。

このテーマを通し、大学ごとに様々な特色があることを感じるとともに、自身の大学の特徴についても再認識することができた。

●第3ラウンド：「私の夢と進路：将来の夢を描こう」

このラウンドは自分の将来像を描き、他のメンバーにその絵の内容を考えてもらった後に、本人が説明を加えるという形式で行われた。

- ・ドラッグストアにて予防医療に貢献する薬剤師になるとともに、自身の経験・様々なノウハウを後輩に伝えていきたい
- ・ドラッグストア薬剤師として、薬だけではなく健康食品や介護用品、サプリメントの知識を深め予防医療に貢献していきたい
- ・製薬会社の学術職という立場で、素早く正確な情報を提供しMRや医師、臨床薬剤師など多くの医療者に頼りにされるようになりたい
- ・大学院において、免疫に関してより深く研究をおこない、研究者という立場から医療に貢献していきたい

上記のように一人一人が思い描く将来像は異なり、同じ薬剤師でも様々な角度から社会貢献を行うことができると分かった。それぞれ、夢をかなえるために何が必要で、どう行動していくか等の課題についても話し合ったが、共通の課題として卒業試験・国家試験の合格が挙げられた。

<総括>

World Caféを通じて、他大学の学生とこれまでの歩み、また将来像について話し合う中で多くの発見・刺激があり、それぞれの価値観、考え方を広げることができた。また、自分自身これから目標に向かうにあたり、どのように行動していくか、また何が足りないのかについても意識することができた。今回のWorld Caféで学んだこと、感じたことをいかに行動に反映させ、実行できるかが今後の重要な課題となると考えられる。

II B班-2

第1部「私たちの歩み！過去、現在、そして未来」では、World Café形式を用いて各ラウンドのテーマを、メンバーを入れ替えながら議論した。

第1ラウンド「私が薬学部に進学した目的と達成状況」(過去)

進学した目的(理由)

- ・高校の先生の影響もあり化学が好き
- ・薬剤師は安定した職業

- ・薬の研究をしたい
- ・昔からアロマや漢方に興味があった
- ・薬学部に進学するつもりはなかったが資格取得のために

上記のように、様々な理由で薬学部に進学をしていることが判明した。さらに討論を進めてゆくと達成状況を考えた時に、入学当初思い描いていたことと5年半教育を受けた今の段階での展望は大きく変化している点は共通していた。

第2ラウンド「私の大学のここが好き」(現在)

- ・茶道の資格が取れる
- ・学生主体
- ・個性豊かな学生が多い
- ・イベントが盛ん

大学そのものの特性であったり人に関することであったりと、薬学と関係ない部分でも魅力を感じているとわかった。

話を派生させ、各大学でどういった特色がみられるのか、また学生間の交流について他学部とのやりとりはどうかといった大学の様子についても情報交換を行った。

第3ラウンド「私の夢と進路：将来の夢を描こう」(未来)

各々がA4用紙に自分の将来の目指す姿を描き、他のメンバーでどういった内容なのか当ててもらい、その後本人から説明してもらった作業を行った。

夢と進路

- ・行政に関わる職に就き、終電やタクシーを使わなければならぬくらい働き、医療に貢献したい。
- ・大学院に進学し、その後病院薬剤師となり臨床研究を活発にしたい。
- ・行政に関わる職に就き、薬学全体の底上げを図ることができる薬剤師になりたい。そのためにも教育という点にも着目していきたい。
- ・病院薬剤師としてあるいは保健所で働き、食中毒の予防・対策など衛生面から地域を支える薬剤師になりたい。

各々が非常に多種多様な未来展望をもっていることがわかった。今後薬剤師となり働く上で、医療の地域格差・薬学教育など考えなければならないことについて討論を行った。薬剤師として何ができるか、何をすべきなのか。将来思い描いていることを実現

するためには、まず国家試験に合格することを目指し努力することが必要だとまとまった。

Ⅱ C班-1

第1部 World Café 私たちの歩み！過去、現在、そして未来

グループワークの一つである World Café を用いて、3つのテーマについて討論を行った。1つのテーマについての討論は20～30分で行われ、これを「ラウンド」と呼ぶ。各テーブル3～4名でグループ討論を行うが、そのテーブルマスターは固定され、司会を担当する。その他の人は（旅人）としてテーマごとに他のテーブルへ移動する。

テーブルマスターから「自己紹介」し、次にメンバーに自己紹介をしてもらう。第1ラウンドではそのまま指定されたテーマで討論を行い、第2ラウンド以降では、「自己紹介」の後に、前のラウンドで面白かった話、印象深かった話を1分程度でそれぞれが紹介し、その後にテーマに沿った討論を行った。

テーマ1 「私が薬学部へ進学した目的と達成状況」

【意見】

- ・ 特に考えて進学した訳ではなかった
- ・ 費用対効果と自分のその時点での能力を鑑みて
- ・ 人の役に立つ仕事がしたい
- ・ 医学・薬学的な知識を身につけるため など

【議論の経緯】

薬学部へ進路を決めたきっかけは、「何となく」や、「就職に困らなさそう」、「両親や身内に薬剤師がいるから」などといった理由が主であった。これは薬学部へ進学しようと考えた「きっかけ」であり、「目的」とは少しずれた回答のように感じた。しかし、メンバーがそれぞれ話を進めていくと、「医師と薬剤師、他の医療職に最新の治療薬について正しい知識を正確に提供することで、患者の役にたてるMRになりたくて、今薬学部にいる」、「行政の立場から、医療福祉の根幹を支えられるように、知識をしっかりと蓄えたので、薬学部で日々、勉学と実験に勤しんでいる」などといった意見が聞かれた。それぞれ薬学部へ入った「きっかけ」は多少曖昧なものであっても、入学してからしっかりと自分の目標を見据えていることがとても印象的であった。また、達成状況についても、「まだまだこれから」という意見が多かった。

テーマ2 「私の大学のここが好き」

【意見】

- ・ みんなよく遊んで、よく勉強する
- ・ 教授や職員が個性的
- ・ 学食がおいしい
- ・ 医療系学部が多く、大学付属病院があること など

【議論の経緯】

様々な意見があったが、中でも教授や職員が個性的であることが大学の魅力の一つであるという意見に賛同者が多かった。ある教授と、共通の趣味である園芸について学生が会話をした翌日、教授が自宅で栽培している花を研究室に持参し、その花について深く話ったそうで、それ以来その教授とその学生との信頼関係が増したという話があった。他者とのコミュニケーションという観点からも、共通の話題で相手との信頼関係を構築することは非常に大切だと、メンバー内で再確認することができた。

また、国家試験対策についても議論の中で話題になった。毎日のように対策講義が行われている大学もあれば、まだ一切国家試験対策らしいことを行っていない大学もあった。不安や不満もあるが、薬学生共通の目標の一つである国家試験の合格を目指して、お互いがんばろうという意見で締めくくられた。

テーマ3 「私の夢と進路：招来の姿を描こう」

【意見】

- ・ 離島で島民の健康を守る
- ・ 大手ドラッグストアで出世し、人材を発掘する立場に
- ・ 介護・福祉の現場で活躍する薬剤師
- ・ 患者の健康を守りつつ、自分の趣味も怠らず など

【議論の経緯】

テーマ1で議論した内容から、さらに具体的に自分の将来像についてそれぞれが発言した。ある沖縄出身の学生は卒業後、地元に戻り、地元で就職し、地元の人たちのために薬剤師として働きたいと発言した。また別の学生は、大きな組織で自分の能力、特性を発揮したいと考えており、そのための具体的なプランも発表した。さらに別の学生は自分の趣味の話をし、自分の精神的・経済的な安定が、自分の能力を患者のために発揮できる要素の一つであると語った。それぞれが個性的で現実味のある夢を語ったが、そのどの夢にも誰かの役に立ちたい、苦しんでいる患者の役に少しでも立ちたいという思いが伝わる話であった。

Ⅱ C班-2

議論の経緯

テーマ1 「私が薬学部に進学した目的と達成状況」

進学した目的を“興味”という言葉でまとめた方から、新族の病気が自分の中できっかけとなり、今は関係した研究職に進むため勉学に励んでいるという話をいただいた。また、行政に進みたい方、“安定”という言葉で臨床で働く薬剤師を目的としていた方からも話をいただいた。テーマ1で話し合われた事をひと言にまとめると、様々な進路で社会貢献ができるということを、皆で感じあう機会になったと思われる。

テーマ2 「私の大学のここが好き」

様々な事を経験できることが好きだという話に関連して、整備されている留学制度を通して国際交流ができる大学の話があった。留学制度は多くの大学でよく耳にする話であるが、大学のサポート体制や留学目的を叶える可能性の大きさに違いがあることも現実である。また、大学にいる学生教員の人柄、大学独自の教育制度、医療大学だからこその優遇制度など、様々な特色が紹介された。テーマ2で各大学の話がされるにつれて羨ましがちな反応が見られた。大学の違いから生まれる羨ましさを皆で感じたように思われる。

テーマ3 「私の夢と進路：将来の姿を描こう」

薬局薬剤師を目指している方から、薬局薬剤師になることを志した背景を話していただいた。薬局実習を通して、患者さん向けに薬の正しい知識を知ってもらうための講座を催している薬局での体験を話していただき、長期実習がきっかけで目標を得られた貴重な話だと感じた。また、女性としての人生と仕事の両立を将来の姿として話していただいた方や、薬剤師として臨床で働くときも、医療チームで患者さんに寄り添うことを特に大切にしたいという方に話していただいた。テーマ3で特に話されたのは、皆の長期実務実習の経験であった。話し合っただけで共通して皆から感じられたのは、長期実務実習が大変有意義であったことである。当テーブルにて話した見解ではあるが、それぞれの価値観で気づきや目標が生まれるためには、実習が“長期”である必要があると感じる。今回のような全国の学生が集まる機会、様々な価値観に触れたとき、特にそれを強く感じる。

[感想]

入学当初から目的意識が強く定まっている方だけとは限らず、入学してから大きな目的を得る方もいることに気づき、それは紛れもなく6年間という長期の薬学教育の魅力だと感じた。また大学に在籍する者どうしで情報交換をすることで、自学に取り入れられるものは取り入れたり、自学の薬学教育に足りないものや必要なものに気付くことができたと思う。貴重な討論の機会をいただき、参加者、また関係者各位に感謝申し上げます。

ⅢA班

1ラウンドを20分(3ラウンドのみ35分)とし、テーブルマスターを含めた3～4名でラウンドごとにテーマ、メンバーを入れ替えて討論を行った。テーマに沿ったキーワードをA4用紙に書き出し、自己紹介、前ラウンドで印象に残った話(第2ラウンド以降)を交えながら、各テーマについて各々の意見を言い合った。

・第1ラウンド 「私が薬学部に進学した目的と達成状況」

実際に意見交換する場はこのラウンドが初めてで、少し緊張している面が見て取れた。しかし、全員がはっきりとした目的を持っており、様々な意見が飛び交うことになった。

地元薬学生の意識改革や高校入試のリベンジといった野望じみたものから、他人のために何かしたいといった一般的なものまで多種多様である。そのなかでも、二人が薬剤師免許の取得を挙げた。国家資格の強みや安定性はやはり魅力的であるといえる。今後、薬剤師としての一歩を踏み出したあとは、各々がまた新たな目標に向かって成長していくだろう。

・第2ラウンド 「私の大学のここが好き」

前ラウンドで印象に受けた内容が多く、その紹介に時間を費やしてしまい、駆け足で議論し合うことになってしまった。

女性陣からは新設などによって薬学棟が綺麗である点が好きということが挙げられた。また、男性陣はなかなか好きなところが思いつかないという状況に陥ったが、遅くまで勉強することができる環境や特待生制度が整っている点から、少なからず6年間モチベーションを維持するためにも、勉強を支える環境は大切だとまとめた。

・第3ラウンド 「私の夢と進路：将来の姿を描こう」

第3ラウンドでは前回までのキーワードの羅列ではなく、自身が実際に思い描いている将来を絵に表し伝えていった。病院、薬局と目指す場所は異なったが、全員の思いの方向性は同じであった。

一人は病棟業務を専門に患者のためにありたいとの考え、一人は病棟業務をこなしながらもその治療データを解析し発信することで医療の質を向上させたいと二段階の夢を抱いていた。また、病院を治療の最終手段と置き、地域での予防に努めるべきではないかとの考えもあった。このような流れは、医療機関(病院)と地域(薬局)で干渉しあい、これからの医療に大きな相互効果を生むと考えられる。このような連携を機能させ、今後の医療を支えていくことが我々6年生卒の薬剤師に期待されているのであろう。

ⅢB班-1

World Café とは、グループワークの1つの方法であり、テーマごとにメンバーを入れ替えて討論を行う。各ラウンドのテーマは、第1ラウンド「私が薬学部に進学した目的と達成状況」、第2ラウンド「私の大学のここが好き」、第3ラウンド「私の夢と進路：将来の夢を描こう」の3つ。自己紹介のあと、テーマに沿った言葉や絵をかいたA4の紙を用いて考えや情報を共有した。また、第2、第3ラウンドでは各メンバーが前ラウンドで印象に残った話を紹介した。

第1ラウンド「私が薬学部に進学した目的と達成状況」

薬学部に進学した目的、もしくは理由として挙げられたのは

- ・入試科目で選んだ
- ・安定を求めて
- ・家族が喘息もちで薬が身近な存在であったため

などであった。ただ、達成状況というよりは、現在自分が取り組んでいることについてあげた人が多く、研究室で取り組んでいることや、働き始めたときのための準備として取り組んでいることを挙げた人が多く、

- ・車について勉強している
- ・研究室では教育について学んでいる
- ・卒論を進めている

といった話があげられたが、以降はフリートークとなり、就職と車に関する話が主となった。車については、在宅医療で自分の車を使いたいという意見から将来どんな車に乗りたかという話に広がり、就職に関しては就職活動時の苦労話などが挙げられた。最後は、進学した目的は薬剤師免許を持たなければ達成できないという意見で一致した。

第2ラウンド「私の大学のここが好き」

自分の通う大学のいいところとして

- ・海が近く、自然と触れ合える
- ・野鳥などの動物をたくさん見ることが出来る

などといった大学生活におけるいいところがあげられ、残念ながらカリキュラム面でのいいところは挙げられなかった。今ラウンドでは旅人が二人とも千葉の大学ということで、千葉に関する話が主となった。関西から来た自分とはもかく、同じ地方出身でもお互いに知らなかったこともたくさんあり、そういった情報共有ができる場所も今回のワークショップに参加できたからこそであるという話になった。

第3ラウンド「私の夢と進路：将来の姿を描こう」

前二つのラウンドでは文字を紙に書いて発言していたが、第3ラウンドだけは文字を一切使わず絵のみで表現し、他の人に当ててもらおうという方式で討論した。今までのラウンドとは異なり、将来の希望などを語るため、ワークショップのテーマである「私達が築く新しい医療と社会：将来への思いを共有しよう」に直結した発言が多くみられ、

- ・地域住民が健康相談にくる薬局の薬剤師
- ・がん専門薬剤師によるサポート外来

などといったこれからの薬剤師に求められていることを意識した目標が挙げられた。

また、今の自分達ではまだ将来像を実現するのは難しいため、卒業後も自己研鑽を積む必要があるといった決意を共有した。

総括

第一部において World Café を利用したことによりほぼ初対面であった学生がお互いに話し合いやすい雰囲気を作ることができた。また、その後の SGD や情報交換会などでも World Café で得た情報などを取り入れている学生が見られるなど、その場限りのグループワークになることはなかったと思われる。

ⅢB班-2

第一部では、「私たちの歩み：過去、現在、そして未来」と題して、World Café 形式を用いて討論を行った。1ラウンドごとにグループのメンバーを入れ替えながら、計3ラウンドを行った。

<第1ラウンド> 「私が薬学部に進学した目的と達成状況」

第1ラウンドでは、3名の学生で上記のテーマについて討論を行った。まず、それぞれがテーマについてのキーワードを A4 用紙に書き、それをもとに発表を行ったのち、討議に移った。

薬学部に進学した目的と達成状況として、以下の項目が挙げられた。

薬学部に進学した目的

- ・臨床研修がやりたかった
- ・薬についての知識を身につけたかった
- ・漢方薬を勉強したかった

- ・地元の薬剤師(薬学部)普及に貢献したかった
- ・資格がほしかった

達成状況

- ・現在まだ勉強中である
- ・地元の薬局と協力して中高生向けのイベントと開催している
- ・国家試験合格が第一の目標である

同じ薬学部に進んだ学生でも、そこに至る理由は様々であるということを実感した。進学してからさらなる目標を見出した学生もおり、向上心、探究心の強さがうかがえた。達成状況としては、これまでの学びで達成に近づいた部分もあるが、薬剤師の資格を取得してからさらに追求していくべき課題もあるという意見が多く、生涯学習を貫くべきであるという意見で一致した。

<第2ラウンド> 「私の大学のここが好き」

第2ラウンドでは、4名の学生で上記のテーマについて討論を行った。まず、それぞれがテーマについてキーワードやイラストをA4用紙に書き、それをもとに発表を行ったのち、討議に移った。

自分の大学の好きな点について、以下の項目が挙げられた。

- ・基礎研究と臨床研修が両方できる
- ・臨床研究が充実している
- ・他学部との交流がある
- ・施設が充実している(最新型のPC室、バーベキューセット)
- ・自然が豊か
- ・学生と教授の距離が近い

大学によって施設や教育制度が大きく異なっており、特に卒業研究については特徴的な方法で行っているところもあった。また、他の医療系学部との交流についてはグループのメンバー全員が在学中に経験したいと望んでいることがわかり、学内で交流があるという学生が挙げた「学校がチーム」というキーワードに全員が賛同した。

グループのメンバーの多くが自分の大学に誇りを持っており、この点が高い意識を持って6年間学び続けられる理由の一つであるように感じた。

<第3ラウンド> 「私の夢と進路：将来の姿を描こう」

第3ラウンドでは、4名の学生で討論を行った。まず、それぞれがテーマについてイラストをA4用紙に描き、それをメンバーに見せてあててもらおうという形で発表を行ったのち、討議に移った。

将来の夢として、以下の項目が挙げられた。

- ・在宅医療に貢献できる薬剤師
- ・病院で活躍できる薬剤師
- ・私生活も充実した薬剤師(ディズニーランドで結婚式を挙げたい！)
- ・西洋医学と東洋医学が両方できる薬剤師

グループのメンバーの進路は病院、薬局、MR とさまざまであり、それぞれが異なった分野での夢を語った。その中で共通していたのは、患者さんの健康を守りたいという思いであり、この目標を再確認したことで、私たちがこれからの医療を担っていくのだという自覚を強くすることができた。

ⅢC班-1

第一部では、World café と呼ばれる手法を用いて討議をおこなった。3 人もしくは 4 人の小グループに分かれ、3 ラウンドにわたってそれぞれのテーマについて議論が交わされた。

【第 1 ラウンド：私が薬学部に進学した目的とその達成状況】

●目的

- ・病院で働きたいという思いがあった
- ・医学部には行けなかった
- ・医療ドラマに憧れた
- ・物理、数ⅢC がなかった
- ・入院中に薬を間違えられた経験があり、それを防ぎたいと思った

●達成状況

達成はまだまだ。達成に向けた努力をしている。

薬学部に進学した目的については人それぞれであり、結果的に進学した先が薬学部であったという者もいたが、それでも全員の動機の根底にあるものは「誰かの役に立ちたい」という思いであることが感じられた。達成状況については、皆がまだ達成できていないという意見であった。達成のためにもまずは国家試験合格を目指して勉強が必要であるという結論になった。また、時間が終了するまでのフリートークでは、医療ドラマの話から、薬剤師が取り上げられる機会が少ないという話に発展し、薬剤師が普段どのような仕事をしているのかが一般の人にあまり知られていないのではないかという意見が挙げられた。

【第2ラウンド：私の大学のここが好き】

- ・仲が良い
- ・ディズニーランドが近い
- ・留学プログラム
- ・校舎が新しい

各大学ともにその環境やカリキュラムの特徴が多く挙げられた。普段なかなか他の大学のことを聞く機会がないこともあり、議論も盛り上がった。簡単なキーワードを見せ、そこから皆に説明するというプロセスを通じて、他大学の良さを知るとともに、自身の学校の良さも改めて実感できた。

【第3ラウンド：私の夢と進路、将来の姿を描こう】

- ・在宅医療
- ・薬局での臨床研究
- ・公務員として災害対策に携わりたい
- ・地元の医薬分業、連携を勧めたい

就職先は異なるものの、在宅医療や、災害の経験、あるいは医薬分業の進まない地元の現状など、「地域のために働きたい」という想いが共通していた。また、様々な形で薬剤師が社会貢献することの重要性を感じた。

ⅢC班-2

第一部

World Cafe という手法を用いて「私たちの歩み！過去、現在、そして未来」について討議した。

1から3のテーマについて、それぞれ異なるメンバーで話し合うスタイルであり、自己紹介から始めてそれぞれの意見をきいていった。

私は初めて用いる手法であったが、カフェのような感覚で緊張が解けた中、お互いの話を近くで聞ける面白い方法だと感じた。

以下、テーマごとの内容を記す。

テーマ1

「私が薬学部に進学した目的と達成状況」

最初の4人のメンバーで討議したところ、薬学部を目指した理由というのはさまざまだというのが一番の印象であった。

目的として「手に職を」「資格が取れるから」「医療関係の仕事に就きたかったから」「理系の学科に興味があったから」など多くの意見が出てきた。

さらに、大学入学前や入学当初と比べ、心境や考え方が変わったかという問いに対しては、ほぼ全員が変わったという意見だった。薬剤師の働くフィールドが意外に広がったことや、実習を通して感じた医療のありかた、さらに研究職やMRなどの存在を知った事などがその理由として挙げられていた。

現在の達成状況としては、ここまで進学してきたこと、CBTやOSCEを通過し実習を行ったことに関して、現時点の目標は達成したと感ずることができている。その一方で、国家試験、研究、進路に関する事柄も含め、これからの大学生活の中で、やり残しがないように計画を立てながら、残りの時間を過ごしていきたいという声がかかれた。

テーマ2

「私の大学のここが好き」

このテーマでは最初なかなか意見が出ず、「自然が多い」や「田舎すぎず都会すぎない」などの立地条件が出されたが、討議をしていく上で大学ごとのカラーがあることが分かってきた。

ある大学では英語教育に力を入れていること、ある大学では他大学や他学部との交流が行われていること、またBLS関連の活動があることが挙げられた。

討議を重ねながら、それぞれの大学にしかない特徴があることがわかり、今回のような意見交換の場の必要性を感じた。

テーマ3

「私の夢と進路：将来の姿を描こう」

ここではそれぞれが将来の自分の姿を絵に描いてから討議を始めた。

病院や薬局で患者に接している場面や、薬を通して患者が笑顔になっている絵、海外で働いている自分を描いているものもあった。

これから進む道はそれぞれだが、一致したのは、経験を積みながら新しい事に挑戦し続けたいということだった。卒業後は病院で働いた後、薬局薬剤師としても働きたいという人や、国際的な知識を身につけてから地域に戻ってきたいなど、方向性は違っても皆が将来の自分に対して目標を持っていることが強く伝わってきた。